ブルンジ月報（２０２６年７月）

※以下は、ブルンジ主要メディア（ＲＴＮＢ、ＩＷＡＣＵ等）の記事取りまとめ。

１． 政治・外交

今月のンダイシミエ大統領の主要な動きは以下のとおり。

●１日、ブルンジ独立６４周年記念式典に出席。ブジュンブラで開催された式典において、国民に対し団結、愛国心及び勤労を呼び掛けた。

●６～７日、コンゴ（民）の政治・安全保障情勢をめぐり、関係者との協議。ＡＵ議長を務める同大統領は、ＤＲＣの野党関係者や宗教関係者をブジュンブラに招き、同国の政治・安全保障情勢について協議。

●１０日、ロシアのラヴロフ外相による表敬を受け、併せてラヴロフ露外相と会談。国連安保理改革におけるアフリカの代表性向上、ＤＲＣ東部の安全保障、サヘル地域のテロ対策、エボラ出血熱への対応等について協議。

●１５日、アフリカ連合関連の教育分野の会合がブジュンブラで開催。

●１５～１６日、ギテガにて地方分権に関する国民ワークショップを開催。政府と国連開発計画（ＵＮＤＰ）は、新たな行政区画再編を踏まえ、地方分権の課題及び今後の優先事項について協議。

内政に関し、

●１３～１６日、野党ＣＮＬをめぐる公判が実施。アガトン・ルワサ（Agathon Rwasa）氏と、現在ＣＮＬ党首を務めるネストール・ギルクウィシャカ（Nestor Girukwishaka）氏との間で続いている党指導部をめぐる対立について、１６日に最高裁行政部で審理が実施。

外交に関し、

●２日、国連開発計画（ＵＮＤＰ）と２０２４～２０２７年国別計画の共同再検討会合を開催。進捗状況や優先事項について協議し、ガバナンス、司法、民間セクター、若者・女性のエンパワーメント、環境保護等の分野における協力を確認。

●１０日、ロシアのラヴロフ外相がビジマナ外相を訪問。両国関係の強化、貿易・経済・人道分野での協力拡大、連携等について協議したほか、アフリカの平和・安全保障についての協議を実施。２０２６年１０月にモスクワで開催予定の第３回ロシア・アフリカ首脳会議に向けた協力についても協議。

●１５日、在ブルンジ中国大使館とブルンジ国際映画・映像祭（ＦＥＳＴＩＣＡＢ）が共催し、「中国映画週間２０２６」を開催。

２． 経済

●６日、政府は石油製品の供給を担うＳＯＰＥＢＵについて、石油製品の供給に加えて鉱業分野にも進出させる方針を発表。

●１６日、ブタニェレラ州ンゴジ県において、乾季農業の推進に向けた取組が進められた。

●２０日、２０２６～２０２７年度国家予算は７兆ブルンジ・フランを超える規模となっており、歳入・歳出ともに前年度から大幅に増加。

●２１日、「ブルンジ・コーヒー開発公社（ＯＤＥＣＡ）は、２０２６～２０２７年コーヒー生産シーズンにおいて、早期の降雨により洗浄場で処理できず、生産者が自宅で乾燥させたコーヒーを対象として、特別集荷の実施を発表。
●２７日、燃料不足が引き続き深刻な問題となっており、タクシー運転手、一般利用者等から、燃料の供給・配分方法に対する不満が表明された。